

# 高知女子大学 発祥の地 記念モニュメント建設へ



Kaiho Shirasagi



第47号

**目次**

- 発祥の地記念モニュメント制作へ向けての活動(1面〜2面)
- ようこそ先輩 後輩の皆さん(3面〜4面)
- 大活躍のしらすぎ達
- 各支部日より(5面〜8面)
- 支部によっては、新しい試みも
- 会計報告、予算案(9面)
- 池キャンパスでの総会&意見交換会の報告(10面)
- 母校の現在としらすぎ会の活動(11面〜12面)

しらすぎ会総会は  
5月の第3土曜。従って今回は  
2014年5月17日

アトリエの高窓からは自然の光がいっぱい降り注いでいて、何か幸せ!



宇宙的な視野で風や水など自然のエネルギーを取り込む新宮作品は、女子大発祥の心意気を今に繋げる絶好の記念になると思えます。できるだけ大勢の同窓生の皆様に協賛いただき、地域の皆様を含めて、より身近な親しみのこもる記念モニュメント建設となりますよう、心からお願ひ申し上げます。

(しらすぎ会 第二十二代会長 永尾朱美)

● 母校発展のための「しらすぎ会活動」へのご協力に心から感謝いたします。

昨年来、高知女子大学発祥の地記念を残したいと、しらすぎ会理事会を中心に、鋭意作業を進めて参りました。山崎美恵子建設委員長(経過報告次頁)に詳細がある通り、我々には願ってもないような巡り合わせで、世界に名を馳せる「風の彫刻家」新宮晋氏の作品を「高知女子大学発祥の地記念モニュメント」として計画できることになりました。

戦後間もない昭和24年4月、「戦後の日本建設の基盤として女性の力に期待するもの大きく、女子教育の向上発展を図るべきこと」と「将来西日本唯一の女子大学に発展させたい」という熱い想いを込めて高知女子大学は開学されました。

## 世界に名を馳せる風の彫刻家 新宮晋氏との出逢い



▲新宮晋氏アトリエから徒歩1分、自然のため池に浮かぶ氏の作品「風のさざ波」を遠くに眺めつつ、木陰で感動!の記念碑建設委員 ▼「風のさざ波」のアップ

### 新宮晋氏の主要作品

- 1978 終りのない対話 (箱根彫刻の森美術館)
  - 1979 遙かなリズム (兵庫県立美術館)
  - 1981 時の旅人 (宮城県美術館)
  - 1985 風のおくりもの(NBTA ポーターズスクエア駅ポスト)
  - 1988 羽ばたき (オリンピック公園、ソウル)
  - 1989 風の音符 (横浜美術館)
  - 1990 雲の牧場(札幌芸術の森野外美術館、札幌)
  - 1991 波の翼 (生口島、広島県尾道市)
  - 1992 銀河の舟 (紫川風の橋、北九州)
  - 1992 コロンブスの風 (ジェノヴァ、イタリア)
  - 1994 はてしない空 (関西国際空港、大阪)
- ※ 次ページへ続きます



▲ボストンの「風のおくりもの」

# できるだけ大勢で共有する女子大 発祥の地記念モノキュメントの 制作活動を目指して

## 制作活動を目指して

●同窓生に「くまなく伝えたい」  
高知女子大学は平成23年4月1日に高知県公立大学法人高知県立大学となりました。24年度しらさぎ会総会(5月19日)において「永国寺キヤンパスに何か記念になるものを創る方向で検討する」ことが決議され、第46号「会報しらさぎ」に永尾会長から、その報告と意見を全会員に問いかけました。

●記念碑建設委員会の発足  
平成25年1月25日、理事会の中に「しらさぎ会記念碑建設委員会」を発足させました。

委員会とは具体的な取り組み方について検討すると同時に、県内のアーティストに関する情報収集やアトリエ訪問を積極的に行ないました。県内アーティストの決定には至りませんでした。卒業生が製作することに意義があるとの判断から11支部の支部長さんを通して情報提供をお願いしましたが、どの支部からも該当者は見つかりませんでした。

●具体的に動き始める  
そこで県外のアーティストで大学や公共施設の作品を制作している人へと範囲を広め



台湾の国立清華大学「沈黙の会話」

るご協力をお願いし、不足の場合は特別会計から支出するということになりました。以上の経過報告と、制作費の件、並びに第一候補者であった新宮晋氏に依頼することが、25年度しらさぎ会総会(11支部の支部長など代議員と本部理事並びにオブザーバー合計46人出席。5月18日開催)において可決されました。

●各関係機関との調整  
その間に南学長や事務局長



アトリエで面談中の建設委員会メンバー

はじめ事務職員・高知県文化生活部私学大学支援課の職員・建築事務所職員・建築設計の職員などとの面談により、大学側や高知県の意向との調整を行なってきました。

●大学に作品を創る意義  
ご高名な新宮晋氏の作品のコンセプトは「風・水・緑・動き」です。しらさぎ会は制作費として支出できる金額には限界がありますので、断られることを覚悟しておりましたが、氏は「学校に創ることは、学生が美術に興味があるなしに関わらず青春の Beck ground になるだろう。作品がいろいろなる自然界のエネルギーになるように設定したい」とのご快諾をいただきました。感謝に堪えません。

(記念碑建設委員会 委員長 山崎美恵子)

## 新宮晋氏の主要作品

- ※前ページから続きます
- 1994 波の記憶 (天保山マーメイド広場、大阪)
  - 1997 光の海 (関西学院大学、兵庫県西宮)
  - 1998 水のデュエット (モンテカティニ・テルメイタリヤ)
  - 2001 宇宙に捧ぐ (メゾンエルメス、東京銀座)
  - 2005 太陽のあいさつ(韓国、アサン、ピナクルランド)
  - 2006 太陽の木(フランス、メドック、ラ・ワイナリー)
  - 2007 沈黙の会話(台湾、新竹、国立清華大学)
  - 2011 光の森(福岡大学中央図書館、福岡)
  - 2012 風の森(吉川美南駅前、埼玉県吉川) 遠い空(メルセデス・ハウス、ニューヨーク)

## 新宮晋氏の略歴

1937 大阪生まれ。1960 東京芸術大学絵画科卒。イタリア政府奨学生として渡伊。1960-62 ローマ国立美術学校で絵画を学ぶ。1966 ミラノ、ブルー画廊ではじめて立体作品を発表、帰国。1967 大阪、東京で個展「風の造形」第2回現代日本彫刻展で宇部市野外彫刻美術館賞受賞。1971-72 ハーバード大学視覚芸術センターより客員芸術家として招かれ渡米。2002 第43回毎日芸術賞特別賞を受賞。紫綬褒章受章。2010 旭日小綬章を受章。2012 宮城県名取市閑上漁港跡で「元気キャラバン閑上」

## 「新宮晋展・小さな宇宙」

谷松屋戸田ギャラリー・山木美術 ☎06-6209-0005  
2013年10月26日~11月30日 11:00-18:30日祝は休み  
大阪市中央区伏見町 3-2-4 (11月3日は開廊/新宮 晋氏の映画上映会)

※「フリージングアース：新宮 晋の夢」はドイツ人監督による93分のドキュメンタリー映画。11月3日大阪芝川ビルで初公開(お申込み必要：山木美術へ)

## 建設委員会の主な動き

- 24年度しらさぎ会総会決議 (H24.05.19) ・「何か記念になるものを創る方向で検討」
- しらさぎ会記念碑建設委員会発足
- 委員会で作家I氏のアトリエ訪問 (H24.09)
- 理事会で作家A氏の作品紹介される (H24.11)
- 県内のアーティスト中心に検討
  - 氏や他校の記念碑の写真や資料収集
- 大学側と面談 (H24.12.11)
  - ・南学長、吉良事務局長。永尾会長、津野副会長、山崎記念碑建設委員会委員長
  - ・設置場所は北敷地内
  - ・26年末までに作家決定、作品イメージ図
- 第1回記念碑建設委員会開催 (H25.01.25)
- 第2回会 (H25.02.21) ③第3回会 (H25.04.16)
- 新宮晋氏のアトリエ (兵庫県三田市) 訪問、津野副会長、霧田理事 (H25.04.23)
- 理事会開催 (H25.04.25)
  - ・第一候補者を新宮晋氏、第二〇氏に
- 大学側と面談 (H25.04.25)
  - ・千矢事務次長、山本チーフ。永尾会長、山崎建設委員長
  - ・メモリアルを刻んだ碑は大学側が製作予定との情報を得る
- 第4回記念碑建設委員会開催 (H25.04.25)
- 理事会開催 (H25.04.25)
  - ・記念碑建設のための寄付金について総会で提案する旨を話し合う
- 第5回記念碑建設委員会開催 (H25.04.30)
  - ・制作費、メンテナンス料等の情報収集
- 歴代会長への公聴会開催 (H25.05.06)
  - 出席歴代会長6名
- 第6回記念碑建設委員会 (H25.05.14)
  - ・新宮晋氏アトリエ(兵庫県三田市)訪問
- 理事会 (H25.05.18)
  - ・経過報告と予算案の承認
- 25年度しらさぎ会総会 (H25.05.18)
- 大学側と面談 (H25.06.26)
  - ・南学長、吉良事務局長と。
  - ・新宮晋氏に高い評価!
- 建築事務所と打ち合わせ (H25.07.12)。
- 新宮晋氏のアトリエ訪問 (H25.07.18)
  - ・建築事務所からも。(永尾、山崎、津野)
- 南学長、吉良事務局長へ経過報告 (H25.07.20)

# ようこそ先輩後輩の皆さん

奴田原藻子さん (国文学科1回生 昭和35年3月卒業)

## 地域の子どもにも伝えるエコ



私の関心事は地球の環境問題であり、自然を少しでも壊さずに次世代に引き継ぎたいと願っている。そのため、次世代の人たちが、より自然に触れ、自然の大切さを理解してくれることが重要だと思っている。まず体験してもらおうことである。とくに、若い世代の親の体験不足が問題である。

これまで、環境や自然体験活動の分野でボランティア活動に関わってきたが、子どもたちに伝えたいことはたくさんあり、まだ少し活動の幅が広がられるかなと考え、昨年度、我が家で



高田美智子さん (国文学科6回生 昭和40年3月卒業)

## 七十の手習い

ローマの古本屋で  
昨年11月、ノートパソコンを買い、その足でパソコン教室に入門した。その教室は九月に始まったばかりで、生徒数も少なく、ゆつくりと、自分のペースで学ぶことができ



圧倒的な迫力で、読む者をベトナムの戦場に引きずりこんでしまう。高田さんの願いは「この本をできるだけ多くの人に読んでもらうこと！」



店主に勧められたものである。「どんな本をお探しですか」と尋ねられ、私は「読みやすい文章で、文学的価値があり、人気を得た本が欲しい」と答えた。女主人はすぐに一冊の本を差し出し、「ぜひ、これをお読みなさい。とてもいい本ですよ」と言った。かなりくたびれた本だった。表紙はどこどころ破れていた。迷っていると、「いい本ですよ。きつと満足なさいますよ」と熱心に勧めてくる。私は他の二、三冊とともに、その本を買った。しばらくは本棚に収めたままに

参加している子どもたちの大半は両親が仕事に出ていて、子どもたちだけで日中を過ごしている。幼児から小学6年生まで14名、サポーター4名で運営している。

手幅に合う範囲で息長く  
活動の中心は、畑作業と育てた作物を使ったおやつ作り、季節

節の行事食など、自然エネルギーを使った災害時にも活用できそうなエコ活動である。自分で種を蒔き、育てたものを自分たちで調理して味わう。ささやかな取り組みながら、何かを掴んで欲しい、何かを伝えたい。サポーターとして夫と、地域の主婦2名に助けられて、私はこの活動を楽しんでいる。

「は〜い注目して！」自分たちで丸めてハランに巻いた団子が茹で上がりました〜

夫の協力があったからこそ。「きょうの出来は上等。昔懐かしい田舎の団子の味じゃ」

年金生活に入ってから16年目、ますます知りたいこと、やりたいことが増えて困っている。子どもとのときは一日が長くて退屈でたまらなかつた時もあったのに、いまは自分の身体が時間に取り残されていく。幸い、いまのところ夫も元気で、もう自分のことだけを心配していれば、なんとかかまわなくていいから、

## 次世代へ繋げる工夫

足が問題である。これまで、環境や自然体験活動の分野でボランティア活動に関わってきたが、子どもたちに伝えたいことはたくさんあり、まだ少し活動の幅が広がられるかなと考え、昨年度、我が家で

# 意見や提言下さい 高知県支部



平成 25 年 6 月 22 日 (土) 開催の高知県支部総会・講演会のようす / 撮影 別役茂子 (英文学科 9 回生)

●例年にない猛暑のなか、高知会館で支部総会を開催。学歌斉唱のあと、来賓の永尾朱美しらさぎ会会長にご挨拶いただきました。議事進行となり、ご出席の方々から積極的にご意見をいただき、たいへん盛り上がりました。総会終了後の講演会は「食事の体へ及ぼす影響についてー食事の脳・内臓での消化吸収の働きかけについてー」の演題で、県立大学健康栄養学部教授川村美笑子先生の講演を拝聴しました。最新の研究を通して食物栄養学から人間栄養学へと日頃の生活に重要な視点を学ばせていただきました。高知県支部は地形の特徴により、**東部・西部・中央地区と3地区に分けて活動**を行っており、本年度は**各地区から意見・提言・情報**を寄せていただき、地区の活性化を図ってゆきます。

大学は創立以来64年の歴史を刻み、卒業生は1万人を超えております。**高知県支部の会員数は3,207名**です。同窓会のなかでの県支部の役割は多く、一方、その立場も把握して、県立大学、同窓会の発展を願い、その役割を果たしてゆく途上です。(支部長 原 絢子 生活科学科 12 回生)



## 山口県支部

●本年は第3回目を迎えました。特別会員の今西一實先生には本年もご出席いただき、会員60数名の我が支部で、計8名の参加は**高い出席率**といえ、しかも若い世代の割合が高いのも自慢です(笑)。

坂本広報担当の出席は、同窓会活動活性化について話し合うきっかけになりました。「幕末から明治、今日に至るまで政局をリードする長州ならばこそその風土を活かし、**ここから活性化の改革の波を起こして下さい**。『一人が一人を誘って倍に!』の気持ちで、参加者を増やしてください。2年後の支部総会に向けて今からアイデアを練りましょう!」。こんな内容でした。それを受けて、海に囲まれた周防大島町にある今西一實先生のミカン農園見学とミカン狩り、さらには近くの温泉巡りがキャンプ場でのキャンプを組んだような**「おとなの遠足」メニューを考案**し、全国の会員の皆さんに参加を呼びかけてみたい。来年「**プレ遠足を企画できないか!?**」など、話は楽しく盛り上がりました。会員には高校生レストランの主催者も居ますから、食事とミカン狩りのセットが最有力候補になりそうです。いずれにしろ、今回の集まりを「同窓会の楽しみ的一端」として、ワクワクする試みに繋げていけたら!と、そんな結論でした。今後の展開が楽しみです。(支部長 樋田 公子 生活科学科 13 回生)

# おとなの遠足

## しらさぎ会各支部だより

かわらず、なぜ魚を食べなくなってしまったのだろう。

一つは食の洋風化。肉料理が手軽で安くいつでも手に入る。若い人ほどその傾向が強い。

次に核家族化。親から子に伝統料理、家庭料理、手作り料理が伝わらなくなってしまった。料理番組や料理本、今ではインターネットで検索してレシピを

見て作るの、全国同じ味になってしまう。

そして、海洋環境の変化により、魚の種類や捕獲量の減少、漁師の減少等も考えられる。

今、次世代に魚料理も含めた食卓の大切さを伝えていかなくては、食卓から魚が消えてしまう。病院栄養士から出発して、会社の社員食堂の栄養士、結婚

後は在宅栄養士として仕事を続けて来た私がそんな危機感を持っていた時「さかな丸ごと食育」サポーター養成講座を知り、受講して「これだ!」と思った。

**魚調理を身近なものに**

東京水産振興会から委託された食生態学実践フォーラムが主催するこの講座は、二日間です

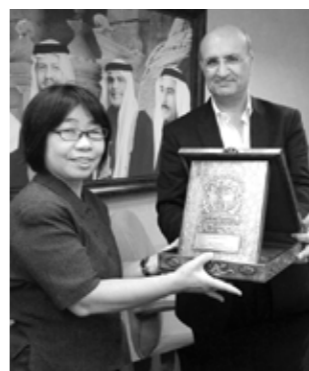
かな丸ごと食育の理論と実践を学び、研修会を修了した人には「さかな丸ごと食育」サポーターとして発信者になるという、画期的な制度である。子どもからお年寄りまで対象に、わかりやすく書かれた「さかな丸ごと探検ノート」(発行財団法人東京水産振興会)を使い、魚と人間と環境の循環図で、山を守れば海

が守れること、魚にはすごいパワーがあり健康にも良いことを学ぶ。実習では、鰯の手開きや鱈のつばぬきを体験し、身近に感じてもらう。

恩師松崎淳子先生の「食は文化じやきに」をいつも心に刻み、食卓を守り育てるために、食文化を次世代に伝えていきたいと思う。

**標高900mに吹く風**

うだるような暑さの中いると3年前のヨルダン生活を思い出します。確かに中東、アラブ、砂漠! 暑い!と誰もが考えそうですが、私が暮らした首都アンマンは標高900mと高原にあり、いつも涼やかな風があり、



アラビアのロレンスで有名な2010.9.1ヨルダン水道庁長官から感謝状を贈られた

とても過ごしやすい所でした。何故、ヨルダン?というところ、定年退職後どうするかなど、あまり深く考えずに、漠然と身体が動く間は何かしたいようにだけ思い、



## ヨルダンで水質管理指導

千葉悦子さん (生活理学科3回生 昭和45年3月卒業)

一人で読むのは惜しい

幼い少女と主人公の言葉のやりとりが始まったその小説は、読み進むに従って深刻さを増していった。戦争がテーマであった。私はいつの間にか、作者によってヴェトナムの戦場に引きずり込まれていた。

作者は新聞記者であり作家である。ヴェトナムで、生命をかけた取材、体験したことを、日記文学にまとめたのがこの本『NINTE E COSI' SIA (ニエンテ エ コシ シア)』である。

読み終えた時、この本を私ひとり読んで、本棚に眠らせてしまうのは惜しいと思った。そのため、翻訳を思い立ち、昨年の秋、ついにやり終えた。自分の手書きを活字にしよう。それがパソコンを習い始めた理由である。



キッズクッキング教室での一コマ

## 食卓をどう守り育てるか



小学1年の孫に魚の調理法を教えているところ。4人の孫には3歳の誕生日に「子供専用包丁」を贈っている

魚離れが問題になっている。魚王国の高知県でさえ食べる人が少なくなると、町の魚屋が減っているの聞き愕然とした。魚好きの私には、高知に帰り美味しい魚を食べるのが楽しみなのに。水産庁のデータによると、健康志向も手伝ってか、世界の一人当たり年間水産物消費量が五十年間で二倍に増加した。しかし、日本は海に囲まれ一年を通じて色々な魚が捕れるにもか

## キャリアを海外で活かす

仕事を続けておりました。そんなある日、市の広報の「ICA(国際協力機構)のシニアボランティア募集の記事を目にし、応募を思い立ち、半年後ヨルダン派遣が決まりました。

派遣に当たり、赴任前に2ヵ月余りの訓練、毎日が語学、語学。卒業英語とは無縁の職場で、ときどき海外の研修生を指導する機会があった程度でしたので訓練は厳しいものでした。

ただ私の派遣目的はヨルダン水道庁品質管理局水質分析センターで分析技術者への分析指導で、私のこれまでのキャリアを海外において展開していくとい

## 検索で全国同じ味に...

魚離れが問題になっている。魚王国の高知県でさえ食べる人が少なくなると、町の魚屋が減っているの聞き愕然とした。魚好きの私には、高知に帰り美味しい魚を食べるのが楽しみなのに。水産庁のデータによると、健康志向も手伝ってか、世界の一人当たり年間水産物消費量が五十年間で二倍に増加した。しかし、日本は海に囲まれ一年を通じて色々な魚が捕れるにもか

の状況は米・独・英などの援助もあり、法令遵守も技術者の養成もかなりなものです。

2年間の海外生活でしたが、改めて外から日本をみると今の日本、このままでいいのかな?という気にさせられることは多少ありました。しかし自分自身を見つめ直す機会にもなりました。人はいつも大きく目を開き、常に新しいものに目をやり、可能ならばチャレンジしていく心が大切です。

帰国して2年余、ヨルダン赴任中、遺跡に興味を持っていたことから今年4月から歴史を学ぶために大学の通信を受けています。何かに興味を持つことはほんとに楽しいことですね。

### 九州支部

## 鹿児島で冬に!

●しらさぎ会九州支部の会員は福岡 119名、佐賀 46名、長崎 81名、熊本 31名、大分 92名、宮崎 86名、鹿児島 67名、沖縄 30名の合計 552名です。

前回、太宰府での会で希望のあった鹿児島で実現します。鹿児島での開催は沖縄(平成17年)より以前に鹿児島純心女子大学の木場先生(元看護学科の教授)や看護学科卒の会員を中心に計画されたことがあり、2回目です。

今回も木場先生のお力を借り、英・看の先輩方の協力で計画しています。鹿児島の会員は年代別では、右図のように若い人が続いています。

20代	30代	40代	50代	60代	70代
27	23	6	5	4	2

学科別では、下の図のように幅広く、

国	英	文	看	理	食	家	福	環	デ
7	4	10	6	12	7	1	8	12	6

居住も鹿児島市、薩摩、川内、指宿、枕崎、志布志、奄美、屋久、徳之島、曾於、鹿屋と、ほぼ全域で活躍されている状況です。

先生方やしらさぎ会本部からもご出席をいただきます。詳しく決まり次第通知しますので、ぜひご都合をつけて集まりましょう。

ご案内は12月以降になりますが、**桜島を眺めながら楽しい時間を過ごしたい**と思いますので皆さんのご協力をよろしくお願ひします。連絡、問い合わせは、支部長宮川麗子まで(看護学科14回生)

支部長宮川麗子まで(看護学科14回生)

Tel & Fax 096-338-9661

### 香川県支部

## しらさぎ会の絆を大切に

●しらさぎ会香川県支部の皆さま、お変わりございませんか。香川県支部が総会を2年に一度開催していることは、ご存知のことと思います。

今年は支部総会の開催の年です。支部役員会で、日時、場所等を下記のとおり決定しております。

**日時** 平成25年11月16日(土)  
**場所** 高松国際ホテル 高松市木太町2191-1 TEL.087-831-7220  
**総会** 10時30分~12時  
**懇親会** 12時~14時(会費3,000円)  
**支部会費** 1,000円(年間500円の2年分)

香川県支部総会の開催にあたり、平成25年2月と5月に役員会をもちました。総会の日時や場所、内容等の検討や本部からの来賓派遣の依頼、総会資料や案内状の作成、それに伴う役割分担等を話し合い、協力して運営にあたってきました。しらさぎ会総会に参加した折、寺内アヤ子先生に来賓として香川県支部総会にお越しただけることになりました。支部総会に大勢の方々の参加をいただき、和やかな雰囲気の中で親睦を深められるよう、役員一同努めて参ります。お誘いあわせの上、ご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。(支部長 嶋村洋子 家政学科1回生)



しらさぎ会 京阪神支部 平成24年11月10日 於 ホテルグランヴィア京都

### 京阪神支部

## 世代を超えた交流の場に

●昨年は支部総会開催の年で、高知県立大学となって初めての開催となりました。恩師であり同窓生でもある堀内和美先生にもご出席いただき、本部の総会に出席した際の本校の懐かしい風景写真を見たり、大学ブランド茶を試飲したり、『大学案内』なども参考に、和やかな支部総会となりました。交通の便のよいホテルグランヴィア京都での開催で、京懐石もおいしく好評でした。今回の開催に当り、ご都合がつかなくて出席いただけなかった多くの方々ともコンタクトさせていただき、色々なご意見やお話を聞かせていただいて、同窓生としての『絆』を深めることができました。懸案の役員選出では、従来通りの『輪番制』の維持が難しい状況となっています。学科の再編などで卒業生のいない学科もあって、高齢のため次回当番学部からの選出ができず、やむを得ず次々回予定の看護学科の方をお願いしたところ、快く引き受けていただきました。若い卒業生が多い看護学科を含め、**新しい学科の若い卒業生にも、もっと参加しやすい方法を探す時期**にきているように思います。**年配者から若い卒業生までの交流の場**として、これからも京阪神支部の同窓会が発展することを心から望んでいます。(前支部長 石井スミ子 英文学科19回生)



酒蔵通りでボランティアガイドさんの説明を受け、なんか得した気分!(笑)の私たち▲



### 広島県支部

## ちょっとした旅を親戚と!?

●「お久しぶりです!」「お元気そうですね!」14回目の支部会開催は平成24年10月13日(土)。JR山陽本線西条駅前に集合し、ボランティアガイドさんの案内で町並みを散策しました。ここ東広島市西条は、瀬・伏見と並ぶ日本有数の酒どころです。8社の蔵元が集まる酒蔵通りは観光客に大人気。私たちも、通りの要所要所で説明を受けながら、風情ある町並みを楽しみました。(もちろん、蔵元自慢のお酒の試飲も見逃しません)。ところで広島支部会は二年に一回の開催となっていますが、場所はその都度変わります。最初の頃は広島県の東部と西部で交互に行なっていました。食事をしながら近況報告などお喋りを楽しみ、解散後は自由行動...ということが多かったのですが、5年前には福山市鞆でミニクルーズ、3年前の県北・三次市では温泉と美術館、そして昨年は日本酒文化に触れる機会を持つことも出来ました。支部会とはいえ、「**ちょっとした旅のような一日を過ごす**」といったところでしょうか。しかもなんだか、**親戚が集まって旅行している感じ**なのです。同じ大学で学んだということが安心感を生むのでしょうか。そして、のんびり感、ゆったり感が漂う心地よさ。この雰囲気を味わいたくて、私は参加しているのかもしれない。南国・高知の青空も思い浮かべながら.....。(支部長 田中めぐみ 国文学科9回生)



高知県立大学しらさぎ会徳島県支部総会 平成24年11月10日 於ムッシュ藤田

### 徳島県支部

## 初めての出席5人も

●全体写真を撮影し同窓会が始まりました。まず自己紹介をかねて近況報告を行ないました。参加者37名のうち**初めて出席の方も5人**いらっしゃいました。以前から顔見知りだったのに初めて同窓生と知り、お互いに驚いている組もありました。食事が進むなかで総会を進行し、会計報告、監査報告、旧役員・新役員紹介と順調に進みました。本部の永尾会長からは資料をもとに現在の県立大学やしらさぎ会についてお話しいただき、最後に高知県立大学学歌を歌って解散となりました。**学歌は女子大と変わっておらず、南学長がこの歌は県立大でも十分通用する**と言われたエピソードを聞かせていただき、歌詞をかみしめました。毎回お願いしている、有志によるしらさぎ会本部への募金箱が設置され、永尾会長から頂戴した懐かしい梅干しのお土産をいただきつつ、寄付して帰るという道になっていました(笑)。全体写真は、解散時にはできあがりお持ち帰りいただきました。料理もたいへんおいしく、またリーズナブルでもあり、皆さん大いに食べて語り合った同窓会でした。なお、本年度以降は多田敏子支部長に後をお願いできることになりました。(前支部長 川西千恵美 看護学科26回生)

## たん熊北店

(ANA CROWNE PLAZA ホテルグランコート名古屋3階)

2013年11月9日(土) 12時~

### 東海支部

## 一日の休みに

●地の利の良い京料理のお店で、和食の会席料理を用意して今年もお待ちします。東海支部は六県に及ぶ広範囲になりますので、参加者は愛知県の方が中心になっています。他県の方もぜひゆっくりとお出かけくださることを心待ちにしております。参加者はこのところ定着傾向というのか12名前後です。皆さん顔なじみで、逢うと和やかにこの一年の生活のこと、家族のこと、趣味の楽しみ、新しい挑戦(いつまでも新しいことに挑む心の熱さに心打たれます!)とか、話は盛り上がり、昨年とは異なり、何より坂本さんの情熱の激しさというのか心の熱さに驚嘆したのでした。あーそうだった、この熱さが女子大を支えていたのだと、土佐人の変わらぬ熱さに、穏やかな日常に埋もれていた心は一瞬揺り動かされたのでした。仕事、子育て、介護等々さまざまな状況を抱える方も多いでしょうが、**かつての高知女子大を振り返るというのか、一日の休み!**と思って、ぜひお出かけください。幹事 田中智恵子(国文学科10回生)



次回こそ、待ってますよ~♥

平成24年度会計報告 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

Table with 5 columns: 項目, H24年度予算, H24年度決算, 増減, 備考. Rows include 繰越金, 入会金, 利息, 奨学金返済金, 前年度寄付金, 60周年記念誌販売, その他, 合計.

Table with 5 columns: 項目, H24年度予算, H24年度決算, 増減, 備考. Rows include 総会費, 事業費, 事務管理費, 通信費, 小計, 予備費, 合計.

特別会計・基本金

Table with 5 columns: 項目, H24年度予算, H24年度決算, 増減, 備考. Rows include 繰越金, 入会金, 利息, 合計.

在学生預かり金

Table with 3 columns: 項目, H24年度決算, 備考. Rows include 繰越金, H24年度入学生, H23年度卒業生, 利息, 退学者返金, 合計.

人事消息 敬称略
退職 (平成25・3・31) 社会福祉学部教授 小坂田稔 同教授 住友友雄
健康栄養学部教授 佐藤厚 同教授 植田哲雄 社会福祉学部講師 上白木悦子 健康栄養学部講師 三木章江 看護学部助教 府川晃子 同助教 福井早苗 生活科学部 手塚内和美 (平成24・9・30)
化学部講師 辻上奈美江
採用 (平成24・10・1) 社会福祉学部助教 二本柳寛 (にほんやなぎあきひろ) (平成25・4・1) 看護学部特任教授 中山洋子 同助教 三好美映子 同助教 森下幸子 同助教 野島真美 同特任助教 有田直子 社会福祉学部准教授 山村靖彦 社会福祉学部講師 遠山貴世 健康栄養学部教授 中村寛子

平成25年度予算案 (H25.4.1～H26.3.31)

Table with 5 columns: 項目, H25年度予算, 備考. Rows include 繰越金, 入会金, 利息, 奨学金返済金, 前年度寄付金, 60周年記念誌販売, その他, 合計.

支出の部

Table with 5 columns: 項目, H25年度予算, 備考. Rows include 会議費, 旅費・交通費, 卒業祝, 入学祝, 学生支援, 支部強化, 広報, 小計, 事務費, 報償金, 賃金, 会報発送, その他, 通信費, 小計, 予備費, 合計.

特別会計・基本金

Table with 5 columns: 項目, H25年度予算, 備考. Rows include 繰越金, 入会金, 利息, 合計.

在学生預かり金

Table with 5 columns: 項目, H25年度, 備考. Rows include 繰越金, H24年度入学生, H23年度卒業生, 利息, 退学者返金, 合計.

監査報告 領収書、出納簿、預金通帳等監査した結果、財務が適正に処理され、誤りなどの問題がないことを認めます。

平成25年度(敬称略)
名譽会長 南裕子(学長)
顧問 野嶋佐由美(副学長)
荻沼一男(副学長)

理事 会長 永尾朱美、副会長 山崎美恵子、津野真千子。
(理事) 梶原和歌、堀内和美、和泉明子、森本志保、川村真美、彼末富貴、西谷抄希子、藤原佑佳子、木下くみ子、岡千尋。
(監事) 川口順子、岡村悦子

岡山県支部

若い人をなぜ誘いたいのか

●本年の支部総会も宮田福先生から大学の現状と、身体や健康、添加物や食品の「毒」について等々、本年度もたいへん勉強になるお話をいただき、土佐弁に高知の爽やかな風を思い出し、岡山にしながら南国の風に吹かれました。自己紹介の時に「もう歳だから～」と言われた先輩に、福先生が「あなたが歳なら、私らはご先祖様やね～」とユーモアたっぷりに返されたのも面白く、会場も大爆笑でしたが、やはり最年長の「ご先祖様トリオ」(と呼ばせていただきます、笑)がいらっしやることで会が引き締め、会の格が上がるなぁと今回も実感させられました。

看護学科卒業の菊井先生は75歳まで仕事をされ、その存在感はパワフルだし、永原前支部長を含め、その年代の諸先輩方は「特別な存在」だと感じます。日常生活で女子大(私達のイメージの中では、いつまでも女子大!)の卒業生と出会う機会はあまりなく、支部総会で出身学科や世代に関係なく卒業生と出会うのは特別な意味があると思っています。

また、「大学卒業の重み」は世代により違いますが、同窓会で先輩方に触れることでその重みを知らされ、女子大の素晴らしさを再認識できます。だから、若い方にこそ積極的に参加いただければ、女子大に対するイメージが、また新たなものになり、母校に対する思いが更に深くなるかとも思っています。なお、来年も8月24日(日)11時半～メルパルクレストラン「ミザール」(今回と同じ)で開催、会費2,500円予定です。(事務担当 久保さとみ 英文学科41回生)



愛媛県支部 同窓会開催の王道を、和やかに



●第47回目を迎える愛媛県支部の本年の総会は道後山の手ホテルで6月30日に開催。門田支部長挨拶のあと、橋尾教授より県立大の現状や県立大学の建て替えの話などを伺いました。橋尾教授のお話は楽しくて、しかもとても為になる内容でしたし、出席者の近況では色々刺激を受け、和やかに癒されるひとときになりました。

あわせて、本年のしらさぎ会総会の報告も行ないました。支部長の代理として参加した私が行なったのですが、意見交換会については、各支部とも会員の把握が難しくなっているとの現状から、今年度は愛媛県支部でも往復ハガキによる総会案内を行ない、返信が32パーセントであったことを報告した旨、ご出席の皆さんにお話ししました。なお、欠席者のなかで154名の方からいただいた返信は、会場で皆さんにみていただきました。

本年の幹事は私と松田千裕さん(健康栄養学科H20年卒)が務めました。次回平成26年6月第四日曜開催予定の会場は八幡浜市内に、幹事は平家多鶴子さん(英文学科S40年卒)、片倉紀子さん(英文学科S42年卒)をお願いできることになっております。(幹事 小川時江 食物栄養学科8回生)

関東支部

第17回 総会・懇親会 開催

開催日 ●平成25年11月17日(日)
日程 ●総会 11:30～11:50
講演会 12:00～12:50
懇親会 13:00～15:00
場所 ●ハイアットリージェンシー 東京(新宿)

●関東支部では、今年度、2年に一度の総会・懇親会を開催いたします。

今回は、来賓として、南裕子学長と、しらさぎ会本部より、永尾朱美会長がご出席下さいます。

南裕子学長の講演会も企画しております。変革していく母校の様子など、多彩なお話が伺えることと、とても楽しみです。

支部の皆様には、9月の中旬にご案内を差し上げます。

高知に青春時代のルーツがある私たち、時や日常を超えて、懐かしいひと時を、ご一緒しませんか?

多数の皆様のご出席を、心からお待ちいたしております。(支部長 佐々木佐恵子 国文学科10回生)

平成25年度 支部会員数 (H25年4月末現在) 人

Table with 2 columns: 支部名, 人数. Rows include 関東支部 (493), 東海支部 (246), 京阪神支部 (817), 岡山県支部 (268), 広島県支部 (184), 山口県支部 (63), 香川県支部 (464), 愛媛県支部 (579), 徳島県支部 (581), 高知県支部 (3,207), 九州支部 (549).

●しらさぎ会員は、総勢10,389人。上記支部会員合計7,451人との差は2,938人。卒業生在住の都道府県に支部がないような場合があるためです。

# 平成25年度 総会 & 意見交換会

平成25年5月18日(土)  
池キャンパス

## 総会報告

### 平成24年度の活動報告

代議員制導入三度目の総会は池キャンパスの本部棟2階第一会議室で、学歌斉唱の後、議事が開始された。24年度の活動報告では理事会が計8回開かれたこと、25年4月末日現在の会員総数が1万389名であること、学生支援としては東北の仮設住宅等での支援ボランティア参加者への交通費補助を行なったことなどが報告された。

### 可能な限り民主的運営で記念碑を

また、高知女子大学発祥の地記念の取り組みに関して、記念碑建設委員会の発足からの動きを山崎美恵子建設委員長が説明した(左頁①)。興味さえ持てば、同窓会の動きが見えやすいように可能な限り民主的に運営していきたいと、委員長の報告は熱意溢れるものだった。

### 平成25年度の活動計画

25年度の活動計画案では、引き続き活発な動きの求められる記念碑建設について、多額の費用捻出を目的とした永尾会長の寄付金のお願いは特に力がかかっていた。

25年の総会開催予定支部は6月22日の高知県支部を皮切りに、山口、愛媛、岡山などと続くこ

## 総会報告ドキュメント 20130518



①総会で記念碑建設委員会の動きについて詳しく説明する山崎美恵子委員長



②役員推薦準備委員会を、永尾会長、津野副会長も出席して2013年3月16日開催



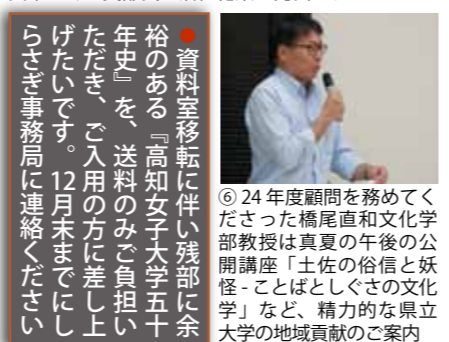
③平成25年度しらさぎ会総会当日のしめくくりは、各支部代議員による意見交換会



④池田保子代議員からは「事務局の山川真弓さんを総会でも、会報にも紹介して！」



⑤広島県支部の茶園美智子代議員からは、田中めぐみ支部長の活性化案が発表された



⑥24年度顧問を務めてくださった橋尾直和文化学公体部教授は「土佐の民俗と妖怪」など、精力的な県立大学の地域貢献のご案内

# 日本初 グローバル 共同大学院 母校の現在と 同窓会しらさぎ会の活動

## 災害看護リーダー養成設置

### 平成26年4月開講予定

南海トラフの巨大地震やテロ、新型インフルエンザなどによる未曾有の災害への対策が急務な今日。全体を俯瞰し、多職種と協働できる災害看護グローバルリーダーを育てるため、災害看護学を牽引してきた高知県立大学など国公私立の5大学院に「共同災害看護学専攻」を設置、5年間の博士課程のキャリアプログラムが計画されている。

## 県立大は県民大

母校の大学改革については本誌でも毎回お伝えしている。昨年度の①「知の拠点」として永

## 共同大学院

高知県立大学 兵庫県立大学  
東京医科歯科大学 千葉大学  
日本赤十字看護大学

国寺キャンパスの整備②文化学部の拡充③地域教育研究センターの開設、以上に加えて、新たに、④大学院の充実⑤健康寿命センターの活性化⑥高知医療センターとの連携強化⑦国際交流の推進、を核に、南裕子学長の力強いリーダーシップによる改革が進められている。



県民に改革の概略を広報するコンパクトリーフレット

新役員の候補者を報告し合った。この委員会により推薦された新理事の候補者が、総会当日、議場推薦で会場に推薦及び立候補者は居ないかを呼びかけたのち、理事推薦委員会の梶原和歌委員より新理事の推薦があり、了承された。

## 復興支援の報告会

草の覆い茂るこの場所に町が あったなんて...想像できない!

臨場感溢れるパワーポイントで、先輩方に3・11の恐怖の記憶を、改めて甦らせた参加学生代表芝田早紀子さん(看護学部3回生)による説明。「自分の五感で感じる大切さ」に思い至ったなど、芝田さんの話のお陰で、諸先輩も交通費の補助ができたことに喜びを感じる報告会となったようだ。



平成24年9月19日~24日まで、岩手県沿岸に建つ仮設住宅での支援活動「夏 GINGA」に参加した学生さんたちの報告会が、総会終了後に開かれた

## 「県民大学」学生プロジェクト 立志社中スタート!

高知県立大学広報委員長 清原 泰治

高知県立大学は「県民大学」をスローガンに、教育、研究、社会貢献のすべてにおいて「県民とともにある大学」としての歩みを続けています。

「地域文化の振興・再生や地域の課題解決のために意欲を持って取り組む学生たちを育てたい」という南裕子学長の強い思いを込めて、「立志社中」が今年7月にスタートしました。「立志社中」とは、「将来の目的を定めて、これを成し遂げようとする学生グループ」という

## レター通信

### 受章

●松崎沙和子高知女子大学名誉教授(生活科学科1回生)は、2012年11月3日付、秋の叙勲で、「瑞宝中綬章教育研究功勞」を受章されました。  
●金谷嘉郎高知女子大学名誉教授は、2012年11月3日付、秋の叙勲で、「瑞宝中綬章教育研究功勞」を受章されました。  
●前日本看護協会会長で国際医

療福祉大学大学院副大学院院長も務める久常節子さん(看護学科14回生)に「ナイチンゲール」が、2013年8月7日贈られました。

### 顕彰

●サツカー「高知県中学選手権」の優勝チームに、第十一代高知女子大学学長成田十次郎先生(高知県立大学及び筑波大学名誉教授)を顕彰する「成田杯」が授与されることになりました。

## 県立大学の 教育改革について

## 意見交換会の報告

### 活性化を図る工夫

宮田福理事(支部担当)の進行で(左頁③)、各支部の活性化案が順に発表された。広島県支部の茶園美智子代議員からは、次のような提案があった(左頁⑤)。  
大学在学中から、同窓会本部などの働きかけで、しらさぎ会活動につながる「交流会」が企画できないか、という田中支部長のアイデアが伝えられたもの。例えば3回生などがリーダーになって出身地ごとの交流会を開き、在学中から将来へ向けてのつながりを作っておけないものかという内容だった。宮田理事は「こんな提案を取っかかりに具体的に動きましょうねえ!」と、いつもの元氣エネルギーを出席者に注入了。

## 6プロジェクト採択!

今年度は6件のプロジェクトが採択されています。内容は、



健康隊。よさこい祭りで熱中症予防を訴える団扇を配りました

- ①三原村で民具の方言呼称を調査する
- ②香美市中山間地域の活性化を目指すイベントを催す
- ③東日本大震災をテーマとするドキュメンタリー映画を上映する
- ④災害時のボランティアセンター立ち上げの基盤を作る
- ⑤米作りを通じて中土佐町を活性化
- ⑥スポーツイベントでの事故防止や健康教育の啓発活動を行う、というものです。



学長からの上限25万円の活動助成金を得て、高知県の抱える課題解決に向けて、学生たちは主体的な活動を展開しています。ご期待ください!

# 母校の現在と、同窓会しらさぎ会の活動

## しらさぎ会では本年も、3・11復興支援ボランティア参加学生の交通費を援助

● 阪神淡路大震災を2歳のときに経験し、怖かった記憶が部分的には残っていますが、やってもらったことを返したい!というのが、いまの活動のいちばんの動機です。人のために動けるのは幸せです。(看護学部3回生 和泉舞香)

● 去年に続き、今年もまたお蔭で参加させていただけました。被災地を見て、知らないことの恐ろしさを感じました。仲間がいたら一人ではできないことでも可能になります。今年の5月に「未災地ツアー」を企画し、震災に備えた活動の具体的な一歩を、自分の活動拠点で踏み出せたと自負しています。これからも多くの仲間を巻き込み頑張って活動を続けたいです。(看護学部3回生 芝田早紀子)

● 三里消防分団で活動しています。一人ではできないことが仲間とならできるという経験は貴重だと思っています。私は地元出身なので親といっしょに暮らしていますが、養育の勉強をしながら、これが将来役に立てることがあると信じています。(健康栄養学部3回生 森 和子)



● 学生の地域支援活動の一端で、「避難所運営の勉強会」を開いた山崎チーフは、段ボール箱を組み合わせた簡易ベッドのアイデアを披露。日常のちよつとした閃きを安価で便利な防災グッズに活かすチーフの見事なワザは、学生たちの尊敬を一身に集めている(よかった)。



この頃、入学式や卒業式に参加するご家族は、なんと!学生数よりも多いそうですね、川淵一也課長!  
● 「入学定員も増え、式典の際に大学の体育館に入りきらない傾向はこの5年ほどずっと続いており、設備経費よりも外部のホールを借りる方が安上がり、という事情もあります。一人の学生にご両親ばかりでなく、家族総出という例も確かに多くなりましたね。本学だけではない全国的な傾向のようですよ!」

● 南学長の就任と同時に、「高知県のボランティア活動の顔で草分けでドン!」ともいえる山崎水紀夫チーフが県立大に着任。高知県民への距離を縮めたい県立大で、大きな牽引力を発揮しているらしい。老子の「上善は水の如し」のような人になることを願い命名された名の如く、経歴は数々「水」に関わってきた。水に関わる物語は本ができてきそうな勢いだ!現在は防災をキーワードにした学生支援を中心に、東北支援バスツアーもその一端で企画した。



池キャンパスの一階、正面玄関の右手、就職支援室の一角に「しらさぎ会事務局」

### 頼りになります!学生課 学生支援担当チーフ

● 学生時代を含めると47年近く永国寺に通ったことになりましたが、4月に新しい学生さんにお会いして、4年後に送り出していく。いつも新鮮な毎日でした。同じ時間を過ごすことができた皆様にお礼を申し上げます。家にいる時間が多くなりましたが、毎日なにかしら驚きがあります。いろんな種類の鳥が庭に来ることや、木や草に花が咲いてくれることなどです。毎月植物の会やお茶の稽古を楽しんでおります。堀内和美(生活理学科3回生)

### この春に定年退職しました。



● 今年で事務局8年目です。お話をきちんとお聞きして、各担当者様に迅速にお伝えする、このことに気をつけております。大学を懐かしく、また身近に思っていた直接的窓口なので、今後とも精いっぱい心をこめて務めさせていただきます!

### 同窓会しらさぎ会事務局専任の山川真弓(家政学科31回生)です!



● 今年で事務局8年目です。お話をきちんとお聞きして、各担当者様に迅速にお伝えする、このことに気をつけております。大学を懐かしく、また身近に思っていた直接的窓口なので、今後とも精いっぱい心をこめて務めさせていただきます!